

科目名・単位数	生活支援技術(2年次)	(5)単位	学習レベル	基礎
学習目標				
① QOLの向上を目指した生活支援の必要性を理解する。 ② 日常生活の介護場面において、安全に支援できる基礎的知識と技術を習得する。 ③ ICFの視点に基づいてアセスメントし、個々の状態に応じた生活支援技術を習得する。				
学期	学習内容	学習のねらい	備考	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション 第1編 私たちの暮らしと生活支援 第1章 生活支援の理解 第1節 生活に視点を置く 第2節 生活支援の考え方 第3節 他の職種の役割と協働 第2章 生活支援に向けたアセスメント 第1節 生活支援におけるアセスメント 6月 第2節 ICFの視点とアセスメント 7月 第2編 自立に向けた生活支援技術 第1章 居住環境の整備 第1節 生活支援における居住環境整備の意義・基本理念 第2節 安心して快適な生活の場づくり 9月 第2章 家事の介護 第1節 家事の支援の意義と目的 第2節 家事支援における介護技術	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備する。 ・要介護者や家族の生活を重視した介護のあり方を考察する。 ・個人の尊厳が持つ価値について理解し高齢者や障害者に対する自立生活支援のあり方を考察する。 ・介護現場に求められるチームアプローチのあり方を考察する。 ・利用者及びその家族が抱えるニーズの把握に向けた関わり方を考察する。 ・ICFを活用したアセスメントの方法を詳しく考察する。 ・バリアフリー、ユニバーサルデザインの考えに基づいた居住環境について理解する。 ・利用者の安心して快適な生活の構築に向けたその手法を習得する。 ・家事の介護を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた家事介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。	全ての項目において、ワークシートを使用し、演習する。 また、他科目と関連して行う。	
	後期 (10月～3月)	10月 第3章 身じたくの介護 第1節 身じたくの意義と目的 第2節 身じたくにおける介護技術 11月 第4章 移動の介護 第1節 移動の意義と目的 第2節 移動・移乗における介護技術 12月 第5章 食事の介護 第1節 食事の意義と目的 第2節 食事における介護技術 1月 第6章 入浴・清潔保持の介護 第1節 生活を支える入浴・生活保持の介護 第2節 入浴・清潔保持における介護技術 2月 第7章 排せつの介護 第1節 自立生活を支える排せつ介護 第2節 排せつにおける介護技術 3月 第8章 睡眠の介護 第1節 睡眠の意義 第2節 睡眠における介護技術 まとめ	・身じたくの介護を理解し、ICFの視点を活かした望ましい介護のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた身じたくの介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・移動介護を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・食事の意義を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・入浴と清潔保持の意義を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・排せつの介護を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・睡眠の意義を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・1年間のまとめを行い、学習理解の確認を行う。	
評価の観点と方法				
観 点 ① QOLの向上を目指した生活支援の必要性を理解することができたか。 ② 日常生活の介護場面において、安全に支援できる基礎的知識と技術を習得することができたか。 ③ ICFの視点に基づいてアセスメントし、個々の状態に応じた生活支援技術を習得することができたか。 方 法 ① 上あげた観点を総合的に評価する。				
使用教科書・副読本	教科書：生活支援技術(実教出版) 副読本：新・介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術Ⅰ 7. 生活支援技術Ⅱ(中央法規出版)			
教材・道具等	パワーポイント・DVD・福祉用具・ワークシート等			